

首里城再建願い、4人独唱

28日「第九 in OKINAWA」

首里城の再建を願い、28日(日)に開催される第7回沖縄国際音楽祭「第九 in OKINAWA」の特別公演では、ベートーベンの交響曲第9番4楽章のソリスト(独唱者)4人が、首里城を舞台



仲本博貴さん

知念利津子さん



新垣寿賀子さん

喜納響さん



に独唱曲を披露する。当日の映像と音声を収録し、公演への支援金を受け付ける沖縄タイムス社のクラウドファンディング「Link-U(リンクユー)」で、支援した人への特典として後日配信する。



支援者には動画配信

4人は首里城への思いを込め、多様な音楽文化を掛け合わせた趣向を凝らし、公演を盛り上げる。

ソプラノの知念利津子さんは、ヘンデルのオペラ「リナルド」からアルミレーナの aria「涙流るるままに」を選んだ。「幽閉され自由を奪われたアルミレーナが涙する歌

曲。首里城の火災でも涙した人が多かったはず。その喪失感を重ねる」と思いを込める。

バリトンの仲本博貴さんは昨年引き続き、宮長長包の歌曲「首里古城」を歌う。首里城は小学校5年生の時に復元された。毎日通った学校は城の隣。まさか焼失するとは思わなかった」と、何より身近な場で歌える機会を大切にす

る。元来は船出を祝い、安全を祈願する歌。「公演は首里城復興を願う支援者のおかげで実現する。取り組みを歌でもり立て、支援者の人生、健康を祈りたい」。

メゾソプラノの新垣寿賀子さんは「ていんさぐぬ花」を首里城再建に重ね合わせた。親の教えと愛情に感謝する大切さ、誠実で情け深い生き方など「歌に詠まれた教訓は沖縄の心。首里城も沖縄の新しい文化拠点としてよみがえるよう次の世代につなぎたい」と意気込んでいる。

特別公演は無観客で、28日午後3時から首里城公園内で実施する。支援金は首里城基金へ寄付し、美術工芸品の修繕などに充てる。支援金は3千円から。

問い合わせは実行委員会、電話098(918)3600。